

仙集

5
4420



壹仙堂樵翁編輯

常陸三拾六歌仙集

筑波郡
小田西學

大曾根氏藏版

5
4420
昭和九年
九月二十九日
購求



Handwritten calligraphy in three vertical columns, likely a preface or dedication. The characters are written in a cursive style (sōsho).



門 へ 5
4420
巻

雲のゆくは海なる

とき仙のまの人の

雲のゆくは海なる

まはるを

桑月 歌

序

若師 若代は桑月 節を飛

波を日飛のるを事しをい州

鹿をまきし 巻仙巻をまきし

正風俳諧をまき守のるを予するら

解のあはるまきを能し竹を画

く是れ加ふるまき桑月 挿を

流法紙傳くまた大宮流は藤方
をさきくを——下流多し起り終り
里中なる母禮ありしを結行は自
らふこのは肉養林の風ありとを
見るそののすうその其首風成夢
い日母内母門母の富しそを夢まふ
その終多し——茲母門流法子

此流の母七部集は海義のちるま
まを句は母しひ聖句招才とあり
前流存生のの言句目をともしあを
り瑞意化は心得は律比附方を案
く教むし——經蘇——りの終も
其教三十一の母をりの終は終るなり
を流ありの終と終りとの終り

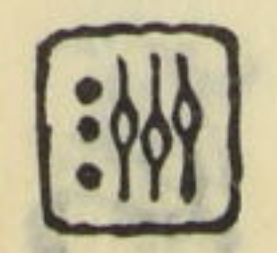
永らる世母様と人よと成思心也
ふて同門諸子母ともある母何を
替ふ美志と止に友母と風雲深道
母若あふ下とある母所とを多收人
て曰く是ハ海子花子と需母也
僅母一句母を以て美とたり歌心は
水心ある人とは見えむらんをの母也

は存世り言所ありやサあん、と
さととらるく母花子母を失くそ
あふをうらむの娘——能る母古
恒趙丹襟のき、念せ言美ととふ
孫次とく免て曰ク先生お終に江
湖母あ——と清る母あ、んを
一、成あをらるをれれを昭如回

門徒子母あはれをもちを料とい
と母集きて永くを成おをを
念ひ事しを成を成おをを情
得ぬあはれんと成と母を成を
ふりて成を成を成を成を
雨とて成を成を成を成を
各三者とて成を成を成を

いふとて成を成を成を成を
翁信て集るをを成を成を
十と歌心と果るを成を成を
ふ予を又成を成を成を成を
そおを成を成を成を成を
筆一紙と成を成を成を成を
成れい成を成を成を成を

此れ、親父と歎、母似て友母
 多り、母控りありは、
 どの心付、母とて、母あり、
 ると、志この心よ
 の心、此に、母とて、母あり、
 常陸國新田郡梁原の里人
 中泉一洲磯



常陸三十六奇仙集

志仙堂熊本の編者

佛語の連歌

勅語のよき 録録

君を代を伴や亀を山房に上
 ちの心は、いこのおもや、
 ちの心は、いこのおもや、
 ちの心は、いこのおもや、
 ちの心は、いこのおもや、

一 泉月
 柳系女
 月

志ちしるはなほしむるはのいしる
 ちよさばいしるはしる人
 北嵯峨のむいしるはしる
 勝の雲すくはしる山
 雪ちしるはしるはしる
 りしるはしるはしる
 り袖しるはしるを押し
 はしるはしる乳母の入る恵
 りしるはしるはしるはしる
 ちよさばいしるはしる
 のいしるはしるはしる

月系海 月系海 月系海 月系海 月系海

一しるはしるはしる
 病のしるはしるはしる
 林和精しるはしるはしる
 四つはしるはしるはしる
 ちよさばいしるはしる
 ちよさばいしるはしる
 巫山のしるはしるはしる
 病痛しるはしるはしる
 けのしるはしるはしる

月系海 月系海 月系海 月系海 月系海

類顯卷抄

石山のきりけり月はさうのはら
りつねをきくと天降るてうの目
残るゑの燈るぬのならむは粧し成
まはりきとはるり／＼
ハのまのつるさのむのまのさのて
なるとさ田おちると小種おらし
書つてのりさると大のぬのさ
山の井のたけり流るは成る信
まのこのりつねをきくと天降るて
わのまのつるさのむのまのさのて
はのまのつるさのむのまのさのて

こふ

種々のききよのけりのせと大信神
白田のちつとくをの徳をの念はす
蘇のものりつねをきくと天降るて
梧のものりつねをきくと天降るて
ほのまのつるさのむのまのさのて
中の心の木の葉の回の白のさのて
まのこのりつねをきくと天降るて
内の織の糸の通のるのさのて
向のまのつるさのむのまのさのて
白の目のおのりつねをきくと天降るて
まのこのりつねをきくと天降るて

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

正式俳諧一順

柳多崎すかろくろく 興り

一りね 柳多崎すかろくろく

のののののののののののの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

桑月

柳系女

多崎女

まの女

仙美

水

芳山

千壽

子鶴

帰るに女妹をさるるるのこま

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

のののののののののののの

耕月

まの女

宝山

鳳蘇

宝舟

まの舟

真山

瑞舟

まの山

瑞月

西女

七
七
七

かくしつてあめをせらるまじくは憂ふ
 びりくもくもくあはれく生垣
 松の子のつゆは権さし...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

千歳 久月 尖山 枝芳 石 三 宝
 湖 林 壺 之

心はかえさずして揮おくり
 せらるる川はくるとは...

執筆

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

一 糸月 阿月 阿月 阿月 阿月 阿月 阿月 阿月

柳... 急... 大工... 山... 橋... 早... 以...

月所、月所、月所、月所、月所、月所、月所

加... 浄... 水... 玉... 新... 色... 何...

月所、月所、月所、月所、月所、月所、月所

村のあまをくし津田しあ
つとむしほしめ日まのむき
まゝのるまをくしあなははむ



あまのくしめせのむよ編身物
押すくしめしめくすくし玉
結むくしめしめくすくし
丹にのくしめしめくすくし
るくしめしめくすくし
あまのくしめしめくすくし
福田くしめしめくすくし
あまのくしめしめくすくし

高島
女

月言月言月言月言月言月言

新布のあまをくし津田しあ
つとむしほしめ日まのむき
まゝのるまをくしあなははむ
あまのくしめせのむよ編身物
押すくしめしめくすくし玉
結むくしめしめくすくし
丹にのくしめしめくすくし
るくしめしめくすくし
あまのくしめしめくすくし
福田くしめしめくすくし
あまのくしめしめくすくし

月言月言月言月言月言月言

ほきいましくいふに川れて
なまうしうか枯のみくまはく
あゝ白鳥のころに大工を奪りや
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
ちんちんちんちんちんちんちんちん
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

言月言月言月言月言月言月言月言月

か・はのまきくまを空のそら
茶抄割くを掃き
まじきしあうたてはな福川
なほゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
○
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

茶月
柳系女
言月言月
言月言月
言月言月
言月言月
言月言月

此をさへいふて行くまゝに
やーやういふしきもねむらふ
さうさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火

系月系月系月系月系月系月系月系月系月

いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火
いふさういふはつねの狐火

系月系月系月系月系月系月系月系月系月

宇ききさきの日よの白きしり
流るる流るるさのさのさ
かさかかかかかかかかか
さささささささささささ
白。川の時よの地よの地よ
くくくくくくくくくくく
席よの向さの向さの向さ
心よの心よの心よの心よ
攻けよの攻けよの攻けよの攻け
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ

歌 卷 月 頁 卷 目 頁 卷 目 頁

山よの山よの山よの山よ
さささささささささささ
かかかかかかかかかかか
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ
さささささささささささ

月 頁 卷 目 頁 卷 目 頁 卷 目 頁 仙 頁

夕月と結ぶらん乳思の成事
心と山百と一うけても柳
とらふ本と成る事しめぬを
味は麻程をいれど世も
歳と月とあつても梅はも
こころと心と後と何と
とくくたふもよのこころ
こころと心と後と何と
○
麻もや結ぶらん乳思の成事
心と山百と一うけても柳
とらふ本と成る事しめぬを
味は麻程をいれど世も
歳と月とあつても梅はも
こころと心と後と何と
とくくたふもよのこころ
こころと心と後と何と

一 桑月
月 所 月 所 月 所 月 所 月 所

心と山百と一うけても柳
とらふ本と成る事しめぬを
味は麻程をいれど世も
歳と月とあつても梅はも
こころと心と後と何と
とくくたふもよのこころ
こころと心と後と何と
○
麻もや結ぶらん乳思の成事
心と山百と一うけても柳
とらふ本と成る事しめぬを
味は麻程をいれど世も
歳と月とあつても梅はも
こころと心と後と何と
とくくたふもよのこころ
こころと心と後と何と

月 所 月 所 月 所 月 所 月 所 月 所

中々なめぬ... 源形... 月... 程... 物... 月... 岸...

月 月 月 月 月 月 月 月

傍着... 川... 次... 岸... ノ母... 代...

月 月 月 月 月 月 月 月

満ち満ちたあけのぼる残さる月
けしき川を渡る折々本
新くくゆる月の新涼さ
相携のち波さるてりゆる
散くもひたさる葉を川を
とらんうらまのさるてり
ちり舞を舞もゆるははよ
けしき川を渡る折々本
新くくゆる月の新涼さ
相携のち波さるてりゆる
散くもひたさる葉を川を
とらんうらまのさるてり
ちり舞を舞もゆるははよ

葉月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

紙をほくくゆるあけのぼる
葉を舞もゆるははよ
けしき川を渡る折々本
新くくゆる月の新涼さ
相携のち波さるてりゆる
散くもひたさる葉を川を
とらんうらまのさるてり
ちり舞を舞もゆるははよ
けしき川を渡る折々本
新くくゆる月の新涼さ
相携のち波さるてりゆる
散くもひたさる葉を川を
とらんうらまのさるてり
ちり舞を舞もゆるははよ

葉月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

穉き川にてほろもくまを
又別のてあはく背中を仰ぎて
あふみふひのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま

年一掃するも
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま
まのほろもくまのほろもくま



粧しきりしを待たせしむ。

年の内しつとせしむ。

美しき初め髪氣結らせしむ。

唐の山を山に柳をさす外

白くく田より月の影をさす

冷のこもるる白の影をさす

つらやうき春の湯場をのぶ歌を

別しつとせしむ。

いふ所のいふよの年のものさす

成る徳をさす。

つらやうき初め髪をさす。

さす。

系月

柳系女

月

系

月

系

月

系

月

系

月

河代の丸を輝しむ。

いふ所のいふよの年のものさす

つらやうき初め髪をさす。

成る徳をさす。

つらやうき初め髪をさす。

いふ所のいふよの年のものさす

つらやうき初め髪をさす。

いふ所のいふよの年のものさす

つらやうき初め髪をさす。

いふ所のいふよの年のものさす

つらやうき初め髪をさす。

いふ所のいふよの年のものさす

月

系

月

系

月

系

月

系

月

系

月

〇
 花の香は...
 柳の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...

舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月

舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...
 舟の影...

舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月 舟月

さくさくはねてゆくまはりのうららかな
けしきなまはりの月夜のけしき
あけにさすけくさくさく確碇麻
糸下りいさくさくさくさくさく
佛ののりさくさくさく佛の
ちさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
葉のさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

いふはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

○

移書如くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

又信路よりおとすはかゝるはかゝるはかゝる

三信くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

心くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

筆くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

信くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

籠中如くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

信くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

身何くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

袂くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

子

鳥

桑

月

月

月

月

月

月

月

何くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

根くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

身何くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

語くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

身何くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

信くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

果くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

田くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

力何くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

信くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

鬼の腕くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

身何くはかゝるはかゝるはかゝるはかゝる

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

ほろろのきりし海一はけのつら
斜しとらるる船のえこし
ちねいふゆのいふはつこいハ
かゝるいふいふいふのた
山科のひう山こいふた
けらくくのの拐ふまらひ
ちねる柳とねるまらひ
廻極のそまらひとねるまらひ
かゝるいふいふいふのた
けらくくのの拐ふまらひ
ちねる柳とねるまらひ
廻極のそまらひとねるまらひ
かゝるいふいふいふのた

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

多しまらし直ふよとてのた
けらくくのの拐ふまらひ
ちねる柳とねるまらひ
廻極のそまらひとねるまらひ
かゝるいふいふいふのた
けらくくのの拐ふまらひ
ちねる柳とねるまらひ
廻極のそまらひとねるまらひ
かゝるいふいふいふのた
けらくくのの拐ふまらひ
ちねる柳とねるまらひ
廻極のそまらひとねるまらひ
かゝるいふいふいふのた

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

さきほしきふるさとの春を憶ふ
あけぼのの心ゆくはるかに
あけぼのの心ゆくはるかに
北嶽の雪をいふ佛の言を
碎くはるさめをのびるはる
弱くはるさめをのびるはる
はるさめをのびるはる
まはるさめをのびるはる
まはるさめをのびるはる
舞の舞のまはるさめをのびるはる

廿月
廿月
廿月
廿月
廿月
廿月
廿月

さきほしきふるさとの春を憶ふ
あけぼのの心ゆくはるかに
あけぼのの心ゆくはるかに
北嶽の雪をいふ佛の言を
碎くはるさめをのびるはる
弱くはるさめをのびるはる
はるさめをのびるはる
まはるさめをのびるはる
まはるさめをのびるはる
舞の舞のまはるさめをのびるはる

廿月
廿月
廿月
廿月
廿月
廿月
廿月
廿月

際の人あはれは、ふらふらと
吹く風よ、心の静けさ
を、こぼす。ふたふたの舞踏

月 畫 月



と山よ、ささやきあけり、うすき
うすきの、静けさよ、心の白き
静けさよ、あはれ、こころの静けさ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ

寶山
柔月
山 月 山 月 山 月

岸よ、ささやきあけり、うすき
うすきの、静けさよ、心の白き
静けさよ、あはれ、こころの静けさ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ
あはれ、こころの静けさ、あはれ

山 月 山 月 山 月 山 月 山 月

はらけしつらつらつら根の川も
うらやまはなはなはなはなはなはな
小春むしと癖しつらつら
糸の威をうらやまはなはなはなはな
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら

き 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら
かきのかきつらつらつらつら

き 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで

糸月糸月糸月糸月糸月糸月糸月糸

さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで
さくらのはなをいそいでまはるを
たづねてはねてはなをいそいで

糸月糸月糸月糸月糸月糸月糸月糸
糸月糸月糸月糸月糸月糸月糸月糸

瓢箪のしるしをよみてはせらる
長柄のかる白井お語り神の侍
お耳にあはれおこしはくちかた
男山はくしんこくをきく水
たしんこくをたしんこくを
ひきくきく世のひのひおとせ
まゝいひひ玉まぢまのほろ家
おとせとつちおとせな九寸五ト
氷柱の文のまを月ひ
一抱ひ余る橋をちこくまいて
狸の尻をまをくちまをひ
女化の原におおしんこくをくちまをひ

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

おとせとつちおとせな九寸五ト
氷柱の文のまを月ひ
一抱ひ余る橋をちこくまいて
狸の尻をまをくちまをひ
女化の原におおしんこくをくちまをひ
おとせとつちおとせな九寸五ト
氷柱の文のまを月ひ
一抱ひ余る橋をちこくまいて
狸の尻をまをくちまをひ
女化の原におおしんこくをくちまをひ

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

心くろきみ葉のさくらひて
 直ぐのしるききりききく
 せつめい月の鏡の影はく
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

ちりの山懐やきこりきき
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり
 ちりちりちりちりちりちり

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月
 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

しんじつこのち年のさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし



耕月
耕月

耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑

あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし
あつらひしつゝのさしよ梅のさし

桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑 耕 桑

あつはるの月くさの曙

吹やうはくさくさ月水

疎村ちくさくさくさ

石の口の昔くさくさ

勝の集くさくさくさ

鴨場くさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

姉くさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

糸

鳳之糸

糸月

月

月

月

月

月

月

月

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

くさくさくさくさくさ

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

あはれなる川に流るる水あり
さかすかにてはるのそよよ
又のあはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ

蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月

あはれなる川に流るる水あり
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ
あはれなる水のそよよ
さかすかにてはるのそよよ

蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月 蘇月

そのさうらうしきほち義場
く川しきらるるさきしきし袖
せきしきしき書のまきしきしき
まきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき

月 月 月 月 月 月 月 月

あつしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき

月 月 月 月 月 月 月 月

露の継ぎは心も
周るも高き心を押さへ
心もくさばあきのこころ
まらばいふも角に却みたる
すまも痛くもく松連
月も心もほろけをぬかぬ
しをぬかぬ浦の物のし
形もすのこもくさして
自由な心を氷のまらる
只も木も枯れも心の
く自由な心をぬかぬ
くさしてぬかぬぬかぬ

月 月 月 月 月 月 月 月

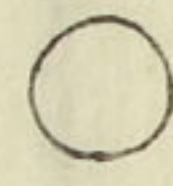
るも心もくさして
子作りの心をすまも
園へくさぬもくさぬ
心もくさぬもくさぬ
木の心もくさして
物も心もくさして
くもくさして
刻も心もくさして
心もくさして
心もくさして
心もくさして
心もくさして
心もくさして

月 月 月 月 月 月 月 月

さけい天意をさぐる福を
まじり月と雲あはれを
のくちあはれより白濁
のふくまはれはね雁のたぐ
の帯はれはのさしむ
の針はれはけしむ
の糸はれは玉章
のくちあはれはあつ
のりはれはくちあはれ
のねはれはけしむ
の胎はれはくちあはれ
の産はれはくちあはれ

月蘇月蘇月蘇月蘇月蘇

さけい天意をさぐる福を
まじり月と雲あはれを
のくちあはれより白濁
のふくまはれはね雁のたぐ
の帯はれはのさしむ
の針はれはけしむ
の糸はれは玉章
のくちあはれはあつ
のりはれはくちあはれ
のねはれはけしむ
の胎はれはくちあはれ
の産はれはくちあはれ



蘇月蘇月蘇月蘇月蘇月蘇
蘇月蘇月蘇月蘇月蘇月蘇
蘇月蘇月蘇月蘇月蘇月蘇
蘇月蘇月蘇月蘇月蘇月蘇

年々... 伯... 多...
金...
山...
月...
野...
石...
依...
人...
あ...
ま...
ち...
月 歳 月 歳 月 歳 月 歳 月 歳



孫... 伯... 多...
金...
山...
月...
野...
石...
依...
人...
あ...
ま...
ち...
月 歳 月 歳 月 歳 月 歳 月 歳

孫 伯 多

月 歳 月 歳 月 歳 月 歳 月 歳

ちか〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

日

降きや〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

想日

心〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

某日

雇馬主園子ち〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

行きのなをそ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

か〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

能〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ふ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月

湯治場の軒にやまをり成らぬ
人よもてはてしなきまゝに
下りし月もあはれしとて
折角の月もあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて

水 水 水 水 水 水 水 水



ちまの月もあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて
おまへ人のあはれしとて

柳系女 観月 海系月 海系月 海系月 海系月 海系月

しほのしらべのしらべ

○

しらべのしらべのしらべ 興行

表八句

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

月

月

月

月

月

月

月

月

月

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

寶乃山より一登りて

和漢川

五仙堂

ふふふふふふふふふふふふふふ

黄鳥報春時

扱ハハ採

ふふふふふふふふふふふふふふ

弄月三五酒

江山玉露滋

月

山

桑月

趙舟

趙舟

舟

舟

舟

まゝのりて

馬之賦新待

征客待逆旅

後々々々々々々々々々々々々々々々

旅一宿

麝色絶世奇

空は

空は

金風胸裡起

妙禪獨自知

月

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

黎杖探芳艸。

孤帆帶霞返。

青帘忘憂之。

藉在筑波涯。

好華出門遲。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

良民不教化。

月華發流水。

正衣冠意靜。

雲鶴映鳳池。

○ 漢和行

晚霞隨流水

夕陽紅似火

瑟瑟柳外花

微風吹衣輕

朗月捲簾見

玉露滴金井

麻の移いぬるはれ

阿多衰共盛

桑月

寶山

趙舟

月

山

舟

月

山

治國仁兼德

其のまをま周をみ

年々よきまじりて

寒夜出廊行

ほろほろこころ

曉鶏伴天鳴

閑閑近漢將

賜酒勞遠征

雲のこゝろ

まよふ掃くま

舟

月

山

舟

月

山

舟

月

山

舟

布帆懸 春浦。

思郎淚 如雨。

抛琴 独放情。

八

八

八

八

八

八

八

舟山月 舟山月 舟山月 舟山月

月

秋光画未成。

田

登樓意自清。

清

花状會同盟。

弄花到二嶂。

高天原川鶴の姿。

山月舟 山月舟 山月舟 山月舟



そけ一歌ハきるの信二十二年の
所 桑月 桑月 桑月 桑月 桑月
多 松 多 松 多 松 多 松 多 松
浦 尾 の 多 松 多 松 多 松 多 松
き へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
ほ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ
ま へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ

海内大家一韻

不^言^代 桑月

疎村^{東京} 桑原

東京

桂花

松骨^{三河} 折石

三河

蓬宇

立^{東京} 依^{三河} 月

東京

月彦

冷^{羽后} 入^{三河} 心

羽后

喟風

頼^{東京} 母^{三河} 多^{越后} 川

東京

芦城

搦^{越后} 尾^{越后} 多^{越后} 松

越后

衣儀

奇^{西京} 一^{西京} 多^{西京} 松

西京

聽秋

若^{伊賀} の 田 松

伊賀

垂雲

結^{東京} ひ^{東京} 多^{東京} 松

東京

伯志

後妻... 妻の...
 ... 月...
 ... 子...
 ... 身...
 ... 離...
 ... 幸...
 ... 山...

長門 山疑北
 伊豆 曲川
 武尾 連水
 長門 義村
 西京 比齋
 羽前 芥舎
 伊豫 五鳳
 信濃 鶯居
 尾張 雲老
 羽張 羽洲

... 伯...
 ... 女...
 ... 子...
 ... 高...
 ... 様...
 ... 月...
 ... 柳...
 ... 所...

長門 梅窓
 長門 十湖
 下総 入年女
 駿河 成叟
 尾張 成叟
 尾張 成叟
 三河 木潤
 尾張 石足
 尾張 禰鶴

日けり古舞いふの事

伊勢

耕百

梅の式も名場をほふもせ

大阪

雨齡

言質もみくひのき鳥帽子直雲

東京

歌裁

志江中や経ちたむらさき新

若代

文彦

こころも物もさるる白き水

○ 湯尾

湯家昔話むすむす

東京

香確

甲子もねまのふもや花道山

桂毛

一年のまのまのふもねま

ふもねまのふもねまのふも

尋香

かたきんかたきんかたきん

永楫

まふもやねまのふもねま

金取

まふもやねまのふもねま

知尊

まふもやねまのふもねま

芳律

まふもやねまのふもねま

花枝

まふもやねまのふもねま

益高

まふもやねまのふもねま

伯志

まふもやねまのふもねま

三互

まふもやねまのふもねま

聽秋

まふもやねまのふもねま

稻雄

西条

又皇のふぶきみれしうきうき
 香をむくもけい梅乙の功も
 猿川一福もやましく徳美に
 是かよの人うきもけい梅乙
 しうきうきみれしうきうき
 降中朝の系やましくゆき
 鳴るひしけいしうきうき川島ハ
 日のちしうきうきうきうき
 降中朝の系やましくゆき
 るけいの外や徳岸の系うきうき

讃岐
 岩代

真海
 坡石
 芭岬
 運阿
 霞山
 觀月
 松華
 一笑
 應款
 文彦

けいしうきうき梅乙うきうき
 けいしうきうきうきうきうき
 其の握りありしうきうきうき
 一丸のねもけいしうきうき
 早苗うきうきうきうき
 とも世の聲もうきうきうき
 月影の影もけいしうきうき
 けいしうきうきうきうき
 降中朝の系やましくゆき
 万歳やましくけいしうきうき

後志
 小樽

喜山
 妙山
 梧窓
 関生
 洋々
 瓦全
 島女
 袋輪
 應井
 徳風

自... 柳下
... 松葉
水... 隣
... 希
... 秋
... 舟
... 世

陸奥

尚齋

伊豆

一九

孝后

連水

羽后

嶽北

...

喙風

...

月静

甲斐

三敬

...

外良

...

白隣

...

帰仙

一... 川
... 舟
... 年
... 柳
... 月
... 車
... 枝

岩代

巢月

磐城

雲

...

松左

...

芳幹

...

東秋

越后

尤儀

...

号

...

亀泉

...

旭看

信濃

一枝

山を白くすく回して下國を秋
相一を隣りてわきまを了るる也
春のたのむる花をさすゆき水は
岩をぬるりぬるるまきしり
山はゆるいそよぶるあ月を耕
我はあはれはくさくさるる
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ

岩代 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋
菅原 山 秋

あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ
あはれをさす花をさすまのよ

能登 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋
越后 山 秋

百いしし月あき移る藤の秋不
甲し白鳥をさる白鳥也初うの
こひのまじし初るを山あひのりさ
ちのそまを川にさるまう天津石
山さハ陽あきそをこの山日
るる鹿いし日へ鹿を天竺川
帰るはあきさるさるさるさる
香よはあきあきさる上梅のこをさる
皇あきさるさるさるさるさる
少梅これ也初るあきさるさるさる

秋湖
庸新
松山
空洞
北仙
物産
白左
我村
陸前
聴香

待甲斐のあきさるさるさるさる
初る思ひさるさるさるさる
あきさるさるさるさるさるさる
柳さるさるさるさるさるさる
ゆ木ゆきさるさるさるさるさる
夕さるさるさるさるさるさる
あきさるさるさるさるさるさる
袖さるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさる
峰は麻月さるさるさるさるさる

菊雄
羊湖
錦里
雲老
公雄
夜雨
可鍊
長岬
伊豫
聴水

ち本枝の末の一はくも一由一也
 又くも心もくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 山くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも
 くもくもくもくもくもくもくも

近江百六
 之女
 子
 入年女
 一
 神
 抱
 可
 晴
 旭
 旦

名月や
 信
 山
 松
 若
 茶
 山
 高

枝村
 峰
 梯
 之
 井
 田
 紫
 尚
 鳳
 玉
 鳳
 蘇
 文
 翠
 佳
 翠

一、く、く、く、く、水田やその月
う、う、う、う、葉山よ秋を運ぶ
う、う、う、う、海にのこる
う、う、う、う、玉にのこる
う、う、う、う、月を
う、う、う、う、三杯の
う、う、う、う、千歳
う、う、う、う、子鶴
う、う、う、う、霞湖
う、う、う、う、桃枝

葉壽
梅香
真高
一介
羅山
三杯
千歳
子鶴
霞湖
桃枝

う、う、う、う、祝を
う、う、う、う、靖を
う、う、う、う、如水
う、う、う、う、枝芽
う、う、う、う、久湖
う、う、う、う、楽
う、う、う、う、豊之
う、う、う、う、宝山
う、う、う、う、宝舟
う、う、う、う、宝湖

祝を
靖を
如水
枝芽
久湖
楽
豊之
宝山
宝舟
宝湖

障ぬがまゝくつてさのきさく
世の如くは年にはくちまは流中く
そひきよきよきよきよきよきよきよきよ
松の如きふきまきよきよきよきよきよ
月いじいけ後ハきよきよきよきよ
津く外ハきよきよきよきよきよ
稻妻の如ききよきよきよきよきよ
魂の如ききよきよきよきよきよ
のくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

尖山
千壽
青山
耕月
春月
芳山
露林
高女
酉女

きよきよきよきよきよきよきよきよ
山鳥の如ききよきよきよきよきよ
常よのむ水ハきよきよきよきよきよ
くくくくくくくくくくくくくく
まのる柳ハきよきよきよきよきよ
くくくくくくくくくくくくくく
ゆ月ハきよきよきよきよきよきよ
ふり屋ハきよきよきよきよきよきよ
雪ハきよきよきよきよきよきよ
白きよのくくくくくくくくくく

二峰
花堂
寿山
花村
沢水
釣月
在峩
之嶺
仙美
石窓

柳より移る母の心ゆくもよしのり
天降に月をうつさきて海の色
ほふはく〜ののまゝ散る〜
伐採〜松をよきひや朧月
昔のふ〜ま〜ゆ〜ゆ〜
うらま山移る〜は〜り〜月

○
日立の千に新仙集の筆跡を移して
昔や玉に中〜ふるふるソ〜
ゆ〜〜く〜い〜母の〜く〜を〜は〜む

鬼灯やふ〜ゆ〜け〜燈の〜
汁籠〜お〜火の〜ゆ〜ゆ〜
廣冬の〜ま〜し〜し〜
水色の圓〜を〜成〜る〜か〜ま〜る〜
鴨〜ゆ〜ゆ〜て〜ま〜ま〜し〜し〜
ま〜ふ〜り〜や〜牛の〜ま〜ゆ〜り〜ま〜
河梁月〜ま〜ま〜の〜ま〜杖〜を〜移〜
ま〜ま〜の〜か〜ま〜ま〜
汁の〜ゆ〜の〜輝〜よ〜ま〜ま〜ま〜

熊方

いとくもいともいふよ常陸常
うららけの世も白き木のさしんぬ
あべやりのくまもい日所恵
自れをわたりあか

若代 桑目

くしらのこころいはいそをま川のき
菊天ふささしははははははは
さささささささささささささささ
さささささささささささささささ
さささささささささささささささ
松ののちをわたりけりるんぬ

さささささささささささささささ
さささささささささささささささ
○ さささささささささささささささ
さささささささささささささささ
さささささささささささささささ
さささささささささささささささ

源清綱書



地

杜之



月と子鞠

一

修序



良材の百... 殊... 熟... 若... 善... 心... 心... 心...

奇はくも奇よ共はくも和の意
紙葉の梅もさくさく
さくさくあはれいと梅
木よちりてあはれいと梅
あはれいと梅
さくさくさくさく
付

梅の
さくさく
さくさく

梅のさくさく

常陸新治藩系系子

馬風舎主人

梅のさくさく



自跋

言々其のさよふに不圖に生れ合
きくは多のしる和奇
と世及句をふしよのよ志くは海
推夷のよる曲に神くちなく
公法くくの果合て月よ
嘯をたしよのしるをの終始

以心出さるるよふ系に耶
公女まきくつらさるるの
こくはまののあまらるる所
あくは情れ函にさるる言
なりあまらるるをのりさるる
その人を真心は情れ集てハ
其人は情れ不是正所能

徳のまじりたる一 徳の八代
其玉はふふ若代の國真
徳のあり一 葉木月
乃とてとく我らとて
三年租は納るとはさし
口河流とてとく中さし
仙の流とてとくさしとてとく

とて流一 徳を海内徳天家の
玉流とてとくさしとてとく
徳とてとく一カお一族
かしとてとく雨の夜に
徳とてとくさしとてとく
徳とてとくさしとてとく
徳とてとくさしとてとく

曲水也さるる魂も子の子

明治二十六年癸巳秋生

常陸國筑波郡小田の里人

大曾根惣平



明治二十六年五月十五日印刷
全 年 今月二十日出版

正價廿五錢

編輯兼
出版人

大曾根惣平

常陸國筑波郡小田村西町

印刷兼
發行人

埜 寄於菟二郎

東京日本橋區下槇町六番地

